

長崎県大村市富の原遺跡出土の弥生人骨

松下真実*・松下孝幸**

【キーワード】：長崎県、弥生人骨、甕棺墓、女性骨、複数体埋葬、保存不良

はじめに

2011（平成23）年2月の初旬、長崎県大村市富^{とみ}の原^{はら}2丁目678-1の畑の所有者から、人参収穫の際に地面が陥没し、甕棺が出てきたとの連絡を受け、大村市教育委員会が緊急に調査をおこなった。この発掘調査で合口甕棺から人骨が検出された（大村市教育委員会、2012）。今回発見された甕棺墓は1基のみであった。甕棺は考古学的所見より弥生時代中期後半～後期前半に属すると推測されていることから、本人骨は弥生時代（中期後半～後期前半）人骨である。

富の原遺跡からは、1980（昭和55）年から1985（昭和60）年までの発掘調査で弥生時代人骨が出土している。1981（昭和56）年に出土した甕棺墓（A-K4、弥生後期）と1982（昭和57）年に検出された石棺墓（B-S19、弥生中期）には骨粉しか残っていなかった。1985年の調査では2基の甕棺墓から人骨が出土した。そのうちの1基（B-K19、弥生後期）から検出されたのは1体の壮年女性骨で、もう1基の甕棺墓（B-K20、弥生後期）からは3体分の人骨が検出された。頭蓋、橈骨、大腿骨、脛骨は3体分存在した。大腿骨と脛骨から、男性1体分、女性2体分、合計3体分の人骨である。頭蓋の保存状態は悪かったので、頭型や顔面の特徴は不明であるが、男性大腿骨は太く（骨体中央周90mm）、柱状性も認められる（骨体中央断面示数112.50）。脛骨も太く（骨体周86mm）、骨体は扁平である（中央断面示数60.61）。一方、女性大腿骨のうちB-K20（C）は太く（骨体中央周83mm）、B-K20（B）はやや細いが（骨体中央周77mm）、両大腿骨とも柱状性が認められる（B-K20（C）の骨体中央断面示数103.85、B-K20（B）の骨体中央断面示数104.17）。脛骨も太く（骨体周78mm）、男性ほどではないが、骨体はやや扁平である（中央断面示数68.97）。すなわち、男女とも大腿骨には柱状性が、脛骨には扁平性が認められ、形態的には大友弥生人に近いが、骨体は太く、サイズは佐賀県の甕棺出土の弥生人骨に近いものであった（松下・他、1986）。

長崎県では、富の原遺跡の他に、長崎市の深堀遺跡、平戸市の根獅子^{ねしこ}遺跡（金関・他、1954、松下、1996b、松下真実・他、2017）、佐世保市の宇久松原^{うくまつぼら}遺跡（松下・他、1983）と宮の本遺跡（松下、1981）、壱岐市の原の辻遺跡（松下、1995、2001）と大久保遺跡（松下・他、1988）、対馬市の住吉平貝塚（内藤・他、1975）、五島市の浜郷遺跡、小値賀町の神ノ崎遺跡（松下・他、1984a）からも弥生人骨が出土している。

また、九州新幹線西九州ルート（長崎ルート）の建設工事に伴い、長崎県大村市竹松町に所在する竹松遺跡の発掘調査が2011（平成23）年からおこなわれていたが、2013（平成25）年度の1区の調査で大規模な弥生時代の墳墓がみつき、その一角から火葬骨が検出された。この発掘調査で、弥生時代の箱式石棺墓21基、甕棺墓4基、石蓋土壙墓2基、土壙墓5基の総数32基の墳墓と標石4個が検出されているが、標石は下部構造を伴っていない。火葬骨は、墓域の西端に位置し、祭祀遺

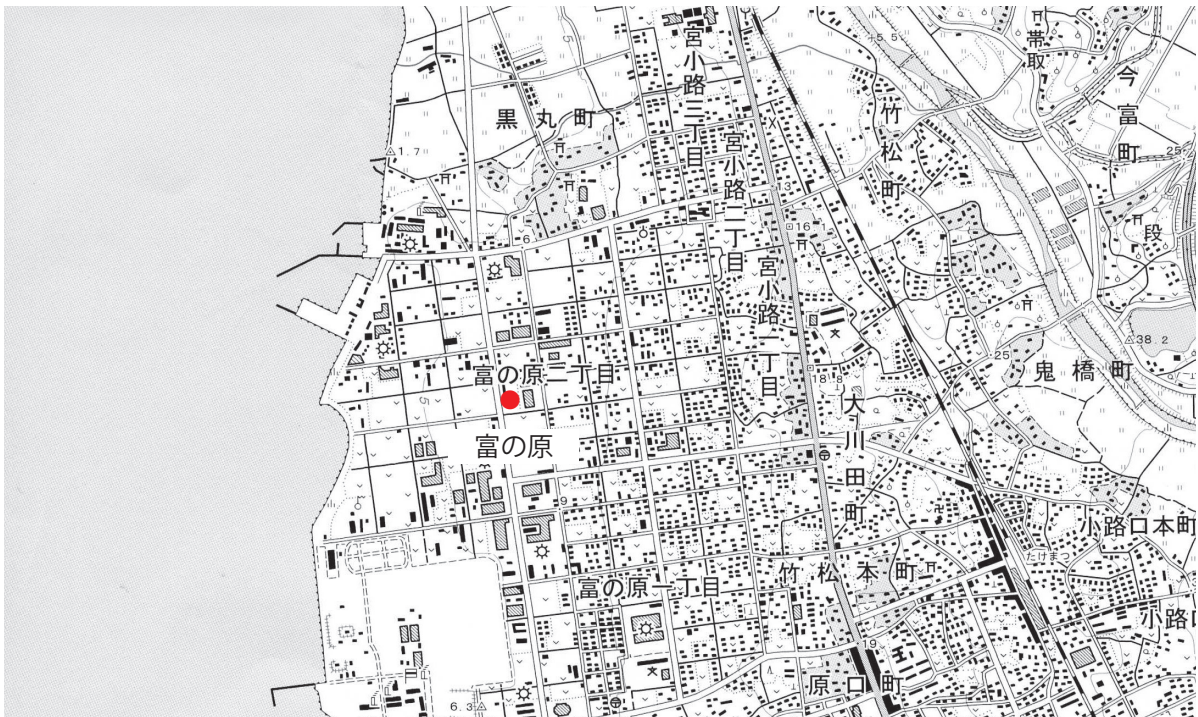
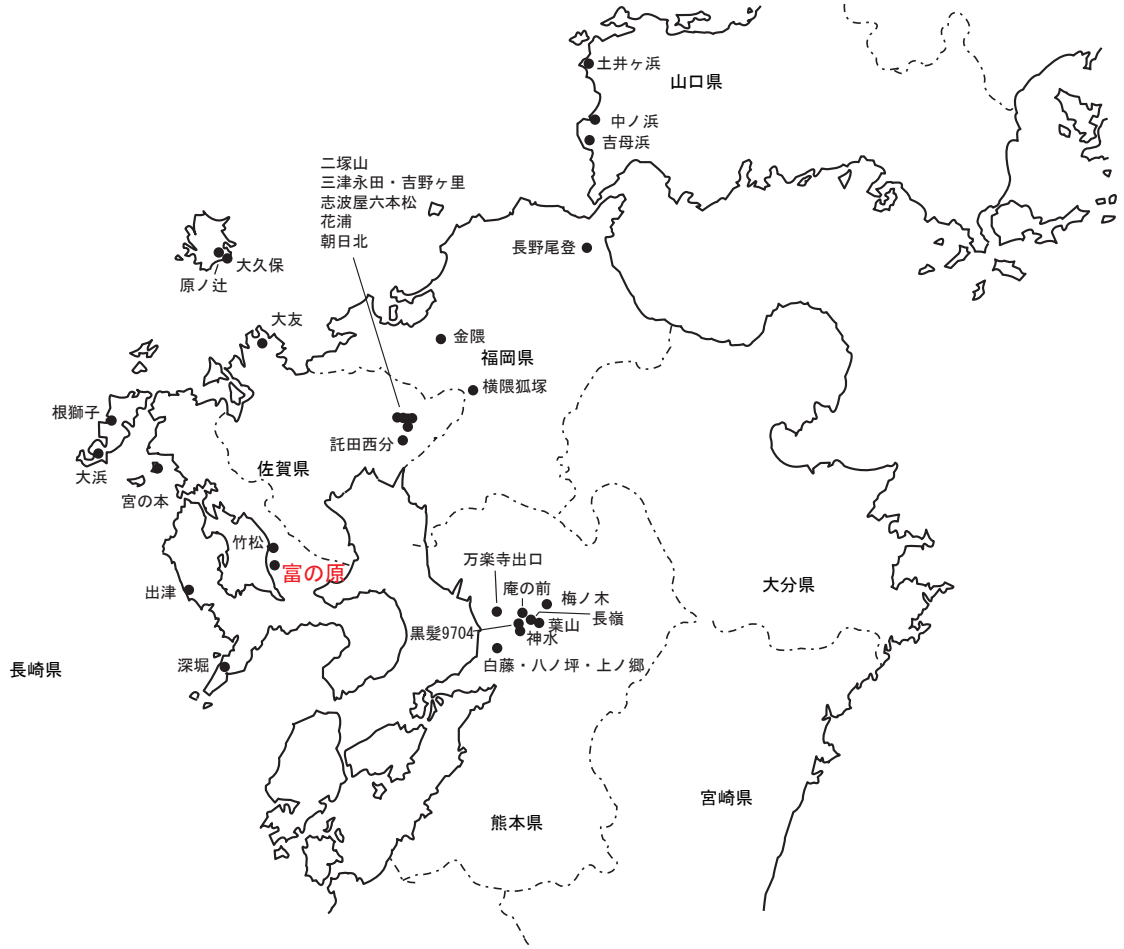


図1. 遺跡の位置 (1/25,000)

(Fig.1 Location of the Yoshimohama site, Hofu City, Yamaguchi Prefecture)

構(SK01)と推測されている供献土器を伴う土坑上部やその周辺一帯から検出されている(長崎県教育委員会、2018)。

東日本では弥生時代の火葬骨や再葬墓がみついているが(石川、1988、設楽、2008)、九州では福岡県志免町の松ヶ上遺跡の合口成人用甕棺(弥生前期後半)から、少量の火葬骨片(頭蓋片と四肢骨片)と歯根2本が出土している例しかない(金・他、1996)。また、沖縄県うるま市の具志川グスク崖下地区から弥生後期の火葬骨片が多数出土している。骨になって焼いたもの(焼骨)と遺体を火葬したもの(火葬骨)とが存在するが(土肥・他、2008)、遺構や火葬骨片の出土状況が竹松遺跡とはかなり異なっている。竹松遺跡の火葬骨の検出状況(明確な土抗を確認できない)から再葬跡とは考え難い。竹松遺跡では火葬骨ばかりではなく火葬されていない人骨も存在したが、遺存状態は著しく悪いもので、形質的特徴を明らかにすることはできなかった(松下・他、2018)。

本甕棺墓から検出された人骨の遺存量は少なかったが、解剖学的に精査し、人類学的観察や計測をおこなったところ、興味ある所見を得たので、その結果を報告しておきたい。

資 料

本甕棺墓から検出された人骨を解剖学的に精査したところ、頭蓋、上腕骨、大腿骨、脛骨が残存していた。そのうち大腿骨は左側が2本、右側が2本、合計4本あったが、左右は対をなすので、大腿骨は2体分である。従って、この甕棺に残っていた人骨は2体分ということになる(表1)。検出できたそのほかの骨については重複する部分は存在しない。この2体分の大腿骨はともに骨体が細く、しかも上腕骨や脛骨も小さいことから、四肢骨を個別に分けることができないので、各骨に番号を付けて、記載することにした。上腕骨は左右の骨体が残存していたが、同一個体かどうか判別できないので、別々の番号を付けた。2体分の大腿骨は骨体はかなり細いことから、2体とも女性と思われる。各骨の性別などは表2のとおりである。なお、年齢は推測できなかったが、参考までに年齢区分を表3に示した。

本人骨は、甕棺の考古学的所見より、弥生時代中期後半～後期前半に属する人骨である。

計測方法は、Martin-Saller(1957)によったが、脛骨の横径はオリビエの方法(前縁がノギスの針の中央に位置するようにして計測)で計測した。

表1 資料数 (Table 1. Number of materials)

成人			幼小児	合計
男性	女性	不明		
0	2	0	0	2

表2 出土人骨一覧 (Table 2. List of skeletons)

人骨番号	性別	年齢	部位
SK1	女性	不明	左側側頭骨、頭頂骨片
HU1	女性	不明	右側上腕骨

HU 2	女性	不明	左側上腕骨
FE 1	女性	不明	両側大腿骨
FE 2	女性	不明	両側大腿骨
TB 1	女性	不明	右側脛骨

SK：頭蓋、HU：上腕骨、FE：大腿骨、TB：脛骨

表3 年齢区分 (Table 3. Division of age)

年齢区分		年 齢
未成人	乳児	1歳未満
	幼児	1歳～5歳 (第一大臼歯萌出直前まで)
	小児	6歳～15歳 (第一大臼歯萌出から第二大臼歯歯根完成まで)
	成年	16歳～20歳 (蝶後頭軟骨結合癒合まで)
成人	壮年	21歳～39歳 (40歳未満)
	熟年	40歳～59歳 (60歳未満)
	老年	60歳以上

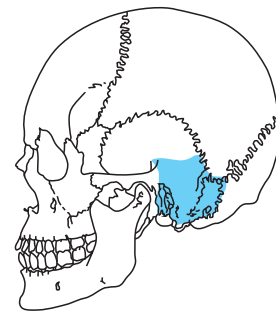
注) 成年という用語については土井ヶ浜遺跡第14次発掘調査報告書(松下、1996a)を参照されたい。

所 見

各骨の計測値は文末に一括して掲げた。

SK 1 (女性・年齢不明)

左側側頭骨1点と頭蓋骨片2点が残存していた。頭蓋骨片の骨壁は薄い。頬骨弓後方の側頭筋附着部分の隆起は弱く、乳様突起はかなり小さい。左側外耳道の観察ができたが、骨腫は認められない。



SK 1 (左側頭骨)

乳様突起が小さいことから、性別を女性と推定した。年齢は不明である。

HU 1 (女性・年齢不明)

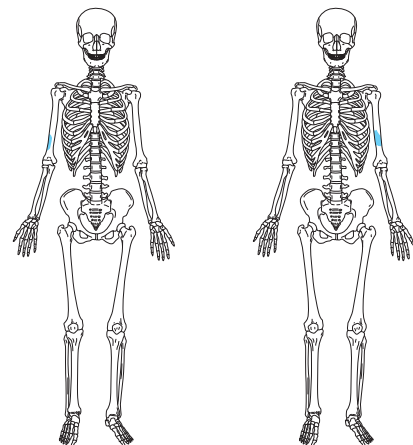
右側上腕骨の内側縁の一部が残存していたにすぎない。骨体はかなり細いことが推測される。

骨体が著しく細いようなので、女性上腕骨と推定した。

HU 2 (女性・年齢不明)

左側上腕骨の骨体中央部がわずか残存していたにすぎない。骨体は著しく細い。

骨体が著しく細いので女性上腕骨と推定した。



HU 1 (右上腕骨)

HU 2 (左上腕骨)

FE 1 (女性・年齢不明)

両側の骨体近位半分が残存していた。保存状態は悪い。骨体は細く、粗線の幅は狭く、発達が悪いが、

骨体両側面の後方への発達はやや良好である。

計測値は、骨体中央周が76mm(右)で、骨体は細い。骨体中央矢状径は25mm(右)、中央横径が24mm(右)で、骨体中央断面示数は104.17(右)となり、粗線は細くて発達もよくないが、骨体両側面の後方への発達は比較的良好である。また、骨体上横径は29mm(右)、骨体上矢状径は21mm(右)、上骨体断面示数は72.41(右)となり、骨体上部は扁平である。

骨体がかなり細いので、女性大腿骨と推定した。年齢は不明である。

FE 2 (女性・年齢不明)

両側の骨体近位部が残存していたにすぎない。保存状態は悪い。骨体は細く、粗線の幅はやや広く、発達は悪い。骨体両側面の後方への発達も強くない。

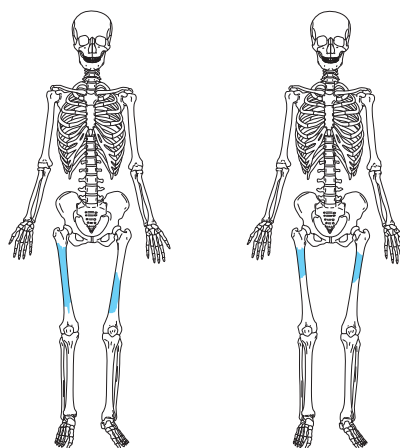
計測値は、骨体中央周が77mm(右)で、骨体は細い。骨体中央矢状径は25mm(右)、中央横径が25mm(右)で、骨体中央断面示数は100.00(右)となり、粗線はやや太いが、発達は悪く、骨体両側面の後方への発達は弱い。また、骨体上横径は29mm(右)、骨体上矢状径は22mm(右)、上骨体断面示数は75.86(右)となり、骨体上部は扁平である。

骨体が細いので女性大腿骨と推定した。年齢は不明である。

T B 1 (女性・年齢不明)

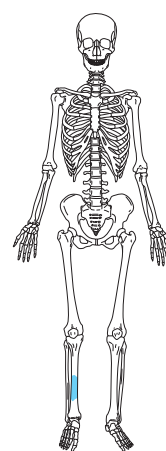
右側の脛骨体が残存していた。骨体は細く、扁平である。計測値は、骨体周が70mm(右)で、骨体は細い。中央最大径は26mm(右)、中央横径が15mm(右)で、中央断面示数は57.69(右)となり、骨体は著しく扁平である。

骨体がかなり細いので、女性脛骨と推定した。年齢は不明である。



FE 1 (大腿骨)

FE 2 (大腿骨)



T B 1 (右脛骨)

考 察

計測ができた女性の大腿骨と脛骨について、以前富の原遺跡から出土した弥生人や、縄文系弥生人の大友弥生人、渡来系弥生人の二塚山弥生人、土井ヶ浜弥生人と比較してみた。

1. 大腿骨

表4は女性大腿骨の比較表である。骨体中央周は、FE-1が76mm(右)、FE-2は77mm(右)で、両者はほとんど大差ない。表4ではFE-1は根獅子15号に次いで小さな値で、FE-2は富の原B-K20(B)と同値で、やはり骨体は細い。中央断面示数は、FE-1が104.17(右)で、表4では富の原B-K19、土井ヶ浜弥生人、二塚山弥生人よりも大きく、富の原B-K20(B)、根獅子12号と同値で、大友弥生人とも

大差なく、骨体両側面の後方への発達是比较的良好である。一方、FE-2の中央断面示数は100.00で、表4では富の原B-K19に次いで小さく、両側面の後方への発達は弱い。上骨体断面示数は、FE-1が72.41、FE-2が75.86で、前者は根獅子16号に次いで小さく、後者は根獅子2号、15号および土井ヶ浜弥生人と大差なく、両大腿骨とも骨体上部は扁平であるが、その程度はFE-1がより顕著である。佐賀平野の甕棺から出土する弥生人の女性大腿骨は男性と同じように骨体が太いが、本甕棺(2011年出土)から検出された2体の女性大腿骨は細いものであった。

2. 脛骨

表5は女性脛骨の比較表である。TB-1の骨体周は70mm(右)で、表5では最小値となり、骨体は細い。中央断面示数は57.69(右)で、表5では最小値となり、骨体の扁平性はかなり強い。

要約

長崎県大村市富の原2丁目678-1に所在する富の原遺跡の緊急調査が、農作業中に地面が陥没し、甕棺が検出されたことによって、2011(平成23)年におこなわれ、甕棺墓1基から人骨が出土した。人骨の遺存量は少なく、保存状態も悪かったが、人骨の人類学的観察や計測をおこない、以下の結果を得た。

1. 甕棺墓1基から2体分の大腿骨が検出された。
2. 本人骨は、考古学的所見から、弥生時代中期後半～後期前半に属する人骨である。
3. 2体の被葬者はともに年齢不明の女性である。
4. 大腿骨は、FE-1の骨体中央周が76mm、FE-2は77mmで、ともに骨体は細い。
5. 脛骨は骨体周が70mmで、大腿骨同様に骨体は細い。中央断面示数は57.69で、骨体の扁平性はかなり強い。
6. 今回甕棺墓から検出された人骨は、同側の大腿骨が2本存在していることから、本甕棺には2体分の遺骨が入っていたことになる。2体分の大腿骨はともに骨体が細く、女性大腿骨と思われる。大腿骨の他に、頭蓋、上腕骨、脛骨も残っていたが、上腕骨と脛骨も細いことから、これらも女性骨と推測され、大きさや形態によって頭蓋と四肢骨を個別に分けることができなかった。頭蓋の保存状態が悪く、頭型や顔面の形態を知ることはできなかったが、大腿骨や脛骨、上腕骨などの四肢骨が細いことから、2体とも小柄な女性であったことが推測される。大腿骨には柱状性が認められることや、脛骨がかなり扁平であることから下肢筋を日常的に酷使していた様子がうかがえる。

また、この2体の女性弥生人は、四肢骨が細いことや大腿骨に柱状性が、脛骨体に扁平性が認められることから推測すれば、大型甕棺墓が盛行する佐賀平野や福岡平野の弥生人とは異なり、西北九州タイプの弥生人と考えられる。

本甕棺から2体分の人骨が検出されたが、甕棺があまり大きくないことから推測すれば、2体の遺体が同時に甕棺に収められたとは考えにくいので、追葬を想定しなくてはならない。その際、遺体が追葬されたのか、遺骨が追葬されたのかも一応考えておく必要がある。1985年に調査された1基(B-K19、弥生後期)の甕棺には3体分の人骨が入っていた。甕棺の供給が困難な地域において、あえて甕棺へ埋葬するという埋葬様式の特異性(こだわり)が垣間見える。

謝辞

《擱筆するにあたり、本研究と発表の機会を与えていただいた大村市教育委員会の皆様方に感謝致します。》

《参考文献》

1. 土肥直美・他、2008：沖縄県具志川市具志川グスク崖下地区の発掘調査。平成17年度～平成19年度科学研究費補助金研究成果報告書
2. 石川日出志、1988：縄文・弥生の焼人骨。『駿台史學』第74号：84-110.
3. 金関丈夫・他、1954：長崎県平戸島獅子村根獅子免出土の人骨に就いて。人類学研究、第1巻第3～4号：178-226.
4. 金幸賢・他、1996：福岡県志免町・松ヶ上遺跡出土人骨（弥生・平安）。松ヶ上遺跡（志免町文化財調査報告第6集）：150-154.
5. Martin-Saller, 1957：Lehrbuch der Anthropologie. Bd.1.Gustav Fisher Verlag, Stuttgart：429-597.
6. 松下真実・他、2017：長崎県平戸市根獅子遺跡出土の弥生人骨。平戸紀要、第5号：1-46.
7. 松下孝幸、1976：対島の先史生物（人類）。長崎生物学会編、対島の生物：31-32.
8. 松下孝幸、1981：宮の本遺跡出土の人骨。宮の本遺跡（佐世保市埋蔵文化財調査報告書）：93-109,114-118,145-146.
9. 松下孝幸・他、1983：長崎県宇久松原遺跡出土の弥生時代人骨。長崎県埋蔵文化財調査集報VI（長崎県文化財調査報告66）：97-134.
10. 松下孝幸・他、1984a：長崎県小値賀町神ノ崎遺跡出土の弥生・古墳時代人骨。小値賀町文化財調査報告、第4集：95-100,178.
11. 松下孝幸、1984b：諫早市有喜貝塚出土の人骨。有喜貝塚（諫早市文化財調査報告書第5集）：62-68.
12. 松下孝幸・他、1986：大村市富の原遺跡出土の弥生時代人骨。富の原遺跡群確認調査概報V（大村市文化財調査報告第11集）：30-45.
13. 松下孝幸・他、1988：長崎県壱岐・石田町大久保遺跡出土の弥生時代人骨。長崎県埋蔵文化財調査集報XI（長崎県文化財調査報告書第91集）：77-99.
14. 松下孝幸、1995：長崎県壱岐原の辻遺跡出土の弥生時代人骨。原の辻遺跡（長崎県文化財調査報告書第124集）：209-220.
15. 松下孝幸、1996a：土井ヶ浜遺跡第14次発掘調査出土の中世・弥生時代人骨。土井ヶ浜遺跡第14次発掘調査報告書（山口県豊北町埋蔵文化財調査報告書第12集）：24-50.
16. 松下孝幸、1996b：根獅子遺跡出土の弥生時代人骨。平戸市史 自然・考古編：405-441.
17. 松下孝幸、2001：長崎県壱岐原の辻遺跡出土の弥生人骨。長崎県埋蔵文化財調査報告XI（長崎県文化財調査報告書第91集）：77-99.
18. 松下孝幸・他、2014：土井ヶ浜遺跡第1次～第12次発掘調査報告書（下関市文化財調査報告書35）第2分冊「人骨編」
19. 松下孝幸・他、2018：長崎県大村市竹松遺跡出土の弥生人骨。竹松遺跡Ⅲ（新幹線調査事務所調査報告書第6集）：517-529.
20. 長崎県教育委員会、2018：竹松遺跡Ⅲ（新幹線調査事務所調査報告書第6集）
21. 内藤芳篤・他、1975：対馬・住吉平貝塚出土の弥生時代人骨例。対馬の遺跡（長崎県文化財調査報告書20）：139-147.
22. 大村市教育委員会、2012：市内遺跡発掘調査概報（大村市文化財調査報告書第36集）：23-26.
23. 設楽博己、2008：弥生再生墓と社会、塙書房
24. 内山大介、2005：先史時代の葬送と供犠—焼骨出土例の検討から。『信濃』第57巻第9号

* Masami MATSUSHITA、特定非営利活動法人・人類学研究機構

** Takayuki MATSUSHITA、土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム

表4 大腿骨計測値(女性、右、mm) (Table 4. Comparison of measurements and indices of female right femora)

	富の原			富の原			根獅子			大友			二塚山			土井ヶ浜				
	弥生人 長崎県 大村市 (松下・他)	B-K19	B-K20(B) B-K20(C)	弥生人 長崎県 大村市 (松下・他)	II号	III号	2号	5号	8号	12号	15号	16号	n	M	弥生人 佐賀県 唐津市 (松下)	n	M	弥生人 山口県 下関市 (松下・他)	n	M
6. 骨体中央矢状径	25	24	27	25	27	26	26	29	28	25	24	25	30	26.00	14	26.57	64	25.50	64	25.50
7. 骨体中央横径	24	25	26	24	27	25	23	26	26	24	23	25	30	25.03	14	25.86	64	25.45	64	25.45
8. 骨体中央周	76	77	83	77	84	80	78	87	84	79	74	79	28	80.32	14	82.71	64	80.14	64	80.14
9. 骨体上横径	29	-	-	30	31	31	29	31	29	30	28	31	32	29.06	10	30.10	61	30.03	61	30.03
10. 骨体上矢状径	21	-	-	27	23	-	22	24	24	24	21	21	32	22.75	10	23.30	61	22.74	61	22.74
6/7 骨体中央断面示数	104.17	96.00	103.85	104.17	100.00	104.00	113.04	111.54	107.69	104.17	104.35	100.00	30	104.05	14	102.79	65	100.31	65	100.31
10/9 上骨体断面示数	72.41	-	-	90.00	74.19	-	75.86	77.42	77.42	80.00	75.00	67.74	32	78.42	10	77.66	62	75.90	62	75.90

表5 脛骨(女性、右、mm) (Table 5. Comparison of measurements and indices of female right tibiae)

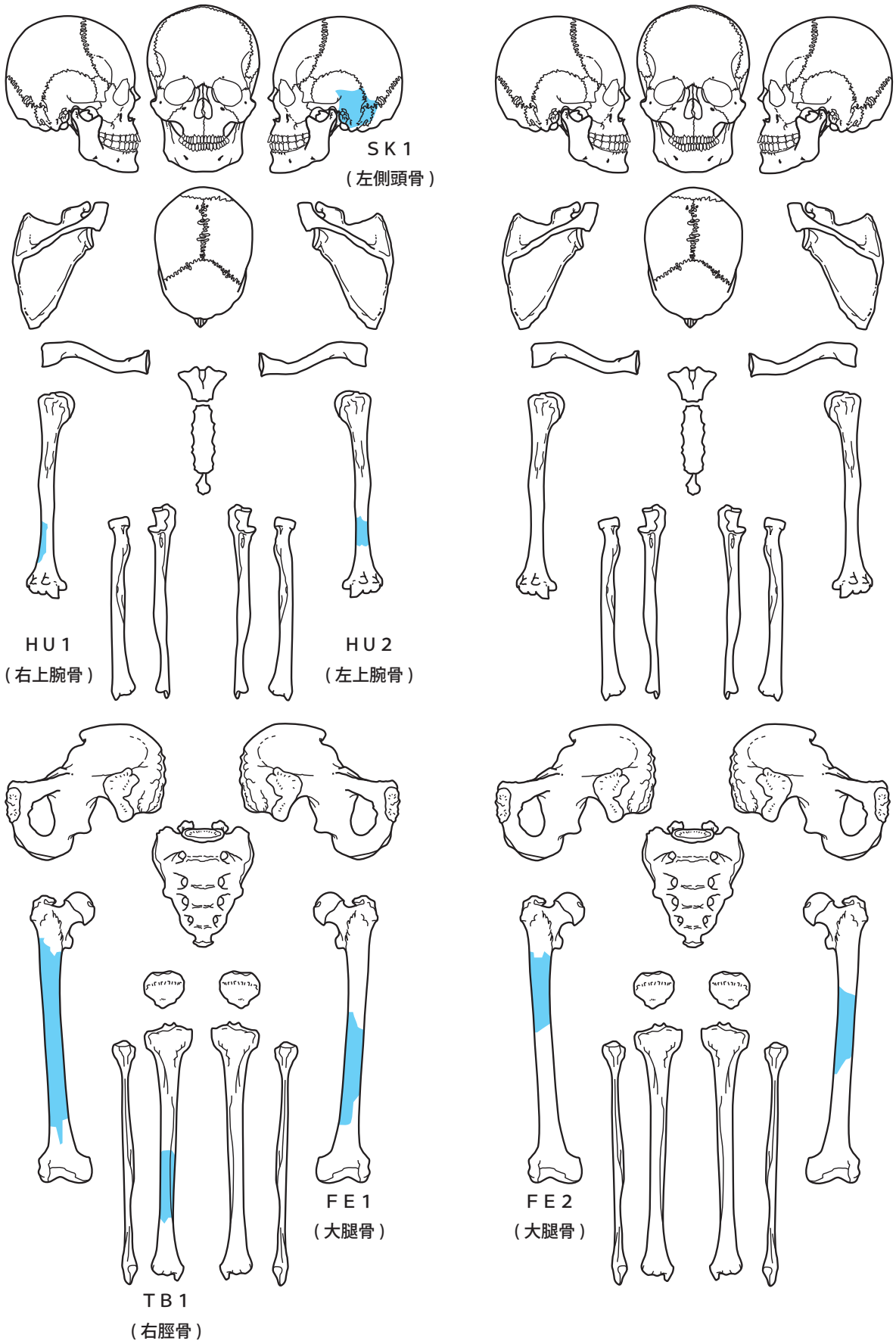
	富の原			土井ヶ浜			大友			二塚山		
	弥生人 長崎県 大村市 (松下・他)	TB-1	K-30A	弥生人 山口県 下関市 (松下・他)	n	M	弥生人 佐賀県 唐津市 (松下)	n	M	弥生人 佐賀県 吉野ヶ里町 (松下)	n	M
8. 中央最大径	26	29	29	26.42	55	26.42	27	27.26	9	27.78	9	27.78
8a. 栄養孔位最大径	-	-	-	30.24	49	30.24	25	30.56	9	32.44	9	32.44
9. 中央横径	15	20	20	19.29	55	19.29	29	19.48	9	20.78	9	20.78
9a. 栄養孔位横径	-	-	-	21.78	49	21.78	25	21.12	9	23.33	9	23.33
10. 骨体周	70	78	78	72.67	55	72.67	27	74.74	9	77.00	9	77.00
10a. 栄養孔位周	-	-	-	82.45	49	82.45	24	82.13	9	87.33	9	87.33
10b. 最小周	-	-	-	66.42	53	66.42	23	68.17	8	69.38	8	69.38
9/8 中央断面示数	57.69	68.97	68.97	73.22	55	73.22	27	71.79	9	75.09	9	75.09
9a/8a 栄養孔位断面示数	-	-	-	72.11	49	72.11	25	69.24	9	72.16	9	72.16

表6 大腿骨(女性、mm)(Femur)

	富の原	
	FE-1 女性	FE-2 女性
1. 最大長(右)	-	-
(左)	-	-
2. 自然位全長(右)	-	-
(左)	-	-
3. 最大転子長(右)	-	-
(左)	-	-
4. 自然位転子長(右)	-	-
(左)	-	-
6. 骨体中央矢状径(右)	25	25
(左)	-	-
7. 骨体中央横径(右)	24	25
(左)	-	-
8. 骨体中央周(右)	76	77
(左)	-	-
9. 骨体上横径(右)	29	29
(左)	-	-
10. 骨体上矢状径(右)	21	22
(左)	-	-
15. 頸垂直径(右)	-	-
(左)	-	-
16. 頸矢状径(右)	-	-
(左)	-	-
17. 頸周(右)	-	-
(左)	-	-
18. 頭垂直径(右)	-	-
(左)	-	-
19. 頭横径(右)	-	-
(左)	-	-
20. 頭周(右)	-	-
(左)	-	-
21. 上顆幅(右)	-	-
(左)	-	-
8/2 長厚示数(右)	-	-
(左)	-	-
6/7 骨体中央断面示数(右)	104.17	100.00
(左)	-	-
10/9 上骨体断面示数(右)	72.41	75.86
(左)	-	-

表7 脛骨(女性、mm)(Tibia)

	富の原	
	TB-1 女性	
1. 脛骨全長(右)	-	
(左)	-	
1a. 脛骨最大長(右)	-	
(左)	-	
1b. 脛骨長(右)	-	
(左)	-	
2. 顆距間距離(右)	-	
(左)	-	
3. 最大上端幅(右)	-	
(左)	-	
3a. 上内関節面幅(右)	-	
(左)	-	
3b. 上外関節面幅(右)	-	
(左)	-	
4a. 上内関節面深(右)	-	
(左)	-	
4b. 上外関節面深(右)	-	
(左)	-	
6. 最大下端幅(右)	-	
(左)	-	
7. 下端矢状径(右)	-	
(左)	-	
8. 中央最大径(右)	26	
(左)	-	
8a. 栄養孔位最大径(右)	-	
(左)	-	
9. 中央横径(右)	15	
(左)	-	
9a. 栄養孔位横径(右)	-	
(左)	-	
10. 骨体周(右)	70	
(左)	-	
10a. 栄養孔位周(右)	-	
(左)	-	
10b. 最小周(右)	-	
(左)	-	
9/8. 中央断面示数(右)	57.69	
(左)	-	
9a/8a 栄養孔位断面示数(右)	-	
(左)	-	
10b/1 長厚示数(右)	-	
(左)	-	



2 人骨の残存図 (アミかけ部分)

(The skeleton from the cinerary urn at the Tachibe site, mature male)



左側頭骨 (The left temporale bone)



頭蓋 (The skull)

富の原 SK-1(女性・年齢不明)

(The skull SK-1 from the Tominohara site,female unknown age)



右上腕骨 (The right Humeri)

富の原 HU-1(女性・年齢不明)

(The humerus HU-1 from the Tominohara site,female unknown age)



左上腕骨 (The left Humeri)

富の原 HU-2(女性・年齢不明)

(The humerus HU-2 from the Tominohara site,female unknown age)



脛骨 (The tibia)

富の原 TB-1(女性・年齢不明)

(The tibia TB-1 from the Tominohara

site, female unknown age)



大腿骨 (The femur)

富の原 FE-2(女性・年齢不明)

(The femur FE-2 from the Tominohara site, female

unknown age)



大腿骨 (The femur)

富の原 FE-1(女性・年齢不明)

(The femur FE-1 from the Tominohara site, female

unknown age)